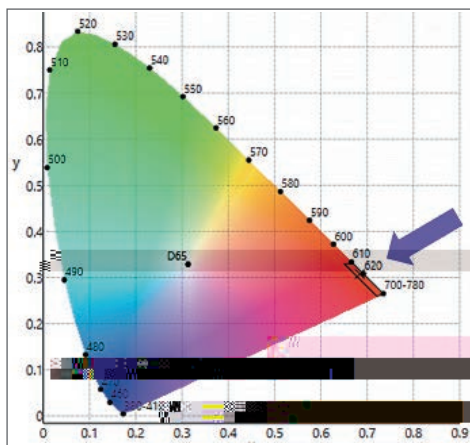


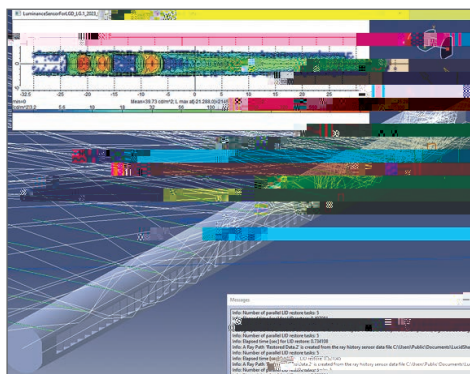
LucidShape CAA V5 Based Version 2023.06

新機能紹介



Advanced Analysis機能

Advanced Analysis機能の強化は工数削減につながります。

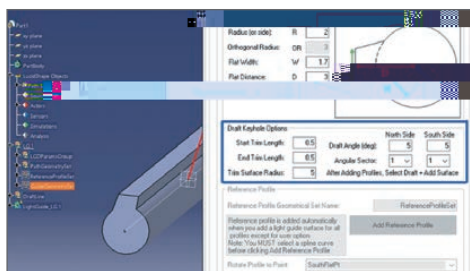


Ray History SensorsとSurface Filter

LucidShape CAA のほぼ全ての受光器にRay History Sensorを追加できるようになりました。これには、Planar Lux Sensor、Surface Sensor、License Plate Sensorが含まれます。DynamicモードのSurface Filterと組み合わせると、復元機能を使用して、選択した光学面の部分的な照度分布や光線経路を、追加のシミュレーションを実行することなく調べることができます。

- データ比較のための断面分布の重ね合わせ表示
- マクロ解析による光路設計適合性テスト

MacroFocal ツールセットには、設計時間を短縮する新機能が搭載されました。



Light Guide Designモジュール

Light Guide Designモジュールは、設計製造性のサポートを強化しました。

- MacroFocal 設計機能内のすべての拡散設定に対してグローバルシフト、スクエリング、ストレッチ機能を追加
- 拡散設定の組み合わせを定義し、拡散設定テーブルを使用して面に適用する機能
- 数百または数千の光学面設計で使用できるシンプルな拡散アルゴリズム
- 数回クリックするだけで設定を変更できる拡散調整ツール

日本シノプシス合同会社

〒158-0094 東京都世田谷区玉川2-21-1 二子玉川ライズオフィス e-mail : osg_sales_japan@synopsys.com

- 新しい断面形状であるドラフトキーホールでは、金型抜き方向を選択してキーホール断面の側面の傾きを設定できるようになり、設計の離型性が向上
- ユーザー定義断面は、定義済みのプロファイル形状と同様のパラメータ化された値を使用できるようになり、断面をより正確に制御可能